

フォトエッセイ

川越とところどころ

2023. 4. 21

島田祥生

今年も、川越の大学時代の友人から木彫画展の案内が届いた
そうだ、あそこに高校の同級生がいたな 誘ってみよう

湘南新宿ラインで池袋に行き、東武東上線で川越市駅まで1時間半
渋谷を過ぎたあたりで携帯が鳴った 東武線が不通と知らせてくれた
新宿で降り、西武新宿線の特急小江戸で本川越へ TKS! Good timing

朝の9時半でも 西武新宿駅の改札口は人の波



9時30分発のレッドアロー特急小江戸
発車5分前に乗車できた
西武新宿線は、かつて通勤に使っていたことがるけれど
本川越まで行ったことはなかったな



座席指定特急券で何となく旅気分
でも、平日で天気予報も芳しくなかったからか
車内はこの通り

途中の武蔵関まで、沿線風景が懐かしい

西武鉄道 Ltd. Express Ticket
特急券
Seibu-Shinjuku Hon-Kawagoe
西武新宿 → 本川越
4^{Month} 21^{Day} 日 Dep. 9:30^発 (Arr. 10:23着)
小江戸 (レッドアロー) 9号 7^{Car}号車 7A^{Seat}席
合計 500円 指定列車に限り有効 
料金 500円 西武新宿駅 104
2023-4-21 408296



1年ぶりの川越です
天気予報が大外れの快晴で暑い暑い
平日の10時半だからか人通りも疎ら

ところが、お昼を過ぎたら、ものすごい人出でした



ミニチュアのお店
端午の節句物がいっぱい
可愛い！と、ついつい見入ってしまうほど

¥3000

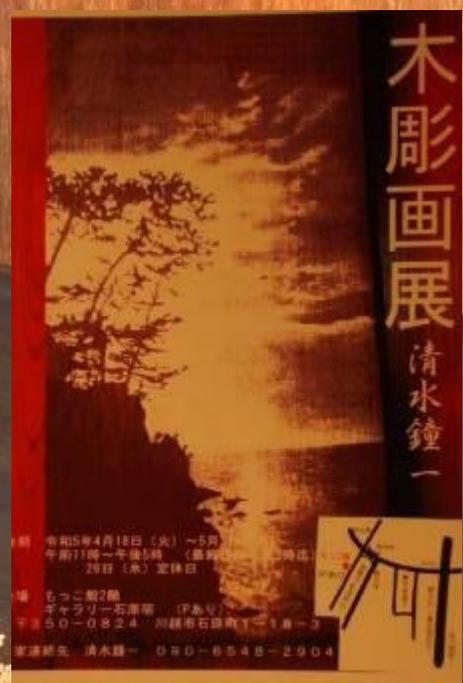


三五月段飾り
¥4,000
税込価格

クリスタルガラス兜
¥1,700
税込価格



磁器兜
¥935
税込価格



木彫画展のギャラリーには
超大作のさくらが鎮座していた
友人曰く「彫っていていやになってしまった」
表面を彩色して、彫ったところは木肌のまま
木目が見えるのがまたいい



THE YOMIURI SHIMBUN 読賣新聞

軍事流用を懸念

大阪

市議、東京区長・区議も

人影複数海

罾狙い

お客がないときにはここで彫っているとか
こんなテーブルの上でも彫れるんだ
30分ほどで彫れるとのこと 暇つぶしにならないですね



気に入った作品を見つけたみたいで動かなくなった
作り手が他のものも説明しているけれど...

しかし、ジャンルを問わず 気が向いたものを手あたり次第と言った感じ
「ローマの休日」もある お前の肖像画彫ってやろうかと言われた 頼もうかな

A wooden desk with a calligraphy brush set, a small bowl, and a piece of wood with a floral design. The desk is made of dark wood and has a small bowl and a brush set on it. A piece of wood with a floral design is also on the desk. The background is dark and out of focus.

お買い上げです
なるほど、動かなくなるわけだ
材料は「栓」
木目が美しい木です



¥8,000

数年前に彫った、若かいし頃のものとか

〇〇〇〇だ！と

見た途端に言い当てたのには感心した

ファンクラブに見せれば高値がつくと思うけど

商売っ気が全くないのデスねえ

五人囃子に舞が付く 祭り囃子も江戸が原点

川越まつりのお囃子は、文化・文政(1804~1830)の時代に江戸から伝わったもので、江戸の葛西囃子や神田囃子を源流としています。流派は下蔵流、芝金杉流、堤崎流に大別され、いずれも祭礼様式の移り変わりに伴い、独自の改良を重ねて発展してきました。笛1人、大太鼓1人、締太鼓2人、鉦1人の五人囃子に舞が付き、笛のリードにより太鼓、鉦を打ち囃します。

曲目は、屋台、昇殿、鎌倉、シチョウメ、インバなどがあり、それぞれの曲に合わせて天狐、獅子、オカメ、モドキ、ヒョットコなどが舞われます。



「川越の住人」を案内した
 勿論この祭りのことは知っていると言っていたが
 会館に入ったことはなかったみたい

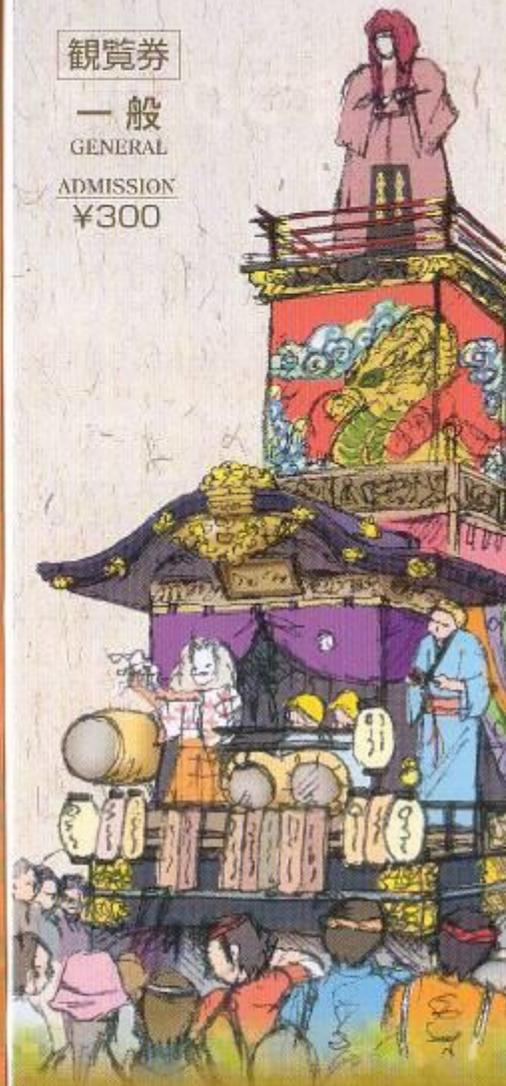
「去年は、さ~~~~と見ただけだったけれど
 今回は知ったかぶりをして案内人のつもい

川越まつり会館

観覧券

一般
GENERAL

ADMISSION
¥300



川越まつり会館
KAWAGOE FESTIVAL MUSEUM

起源は370年前 城主が勧めた氷川祭礼

川越まつりは、慶安元年(1648)城主の松平伊豆守信綱が氷川神社へ祭礼用具を寄進し祭礼を奨励、同4年(1651)に御輿が氏子の町を渡御したのが始まりと言われています。川越まつりは元来、氷川神社の例大祭で、神社の神事祭式と氏子の上・下十カ町が中心になって行う余興の町方祭礼行事から成立したものでした。しかし、その後、祭りの様式は大きく変遷。文政9年(1826)の氷川祭礼絵巻では、神幸祭を先頭に列をなして川越城へ向かう笠鉦形式の山車と踊り屋台などの付け祭りが克明に描かれています。天保15年(1844)の祭礼絵馬では、全ての山車が一本柱型式に統一され、勾欄に人形を乗せているのがわかります。さらに文久2年(1862)の一枚ずりの番附絵では、南町と志義町が、早くも二重鉦の江戸型の山車になっています。明治以降になると踊り屋台や底抜け屋台が次第に姿を消し、祭礼の運営は山車を主体とした現在の形になっていきます。



川越氷川祭礼絵馬
(1844)氷川神社蔵

江戸情緒あふれる 川越まつりの見どころ



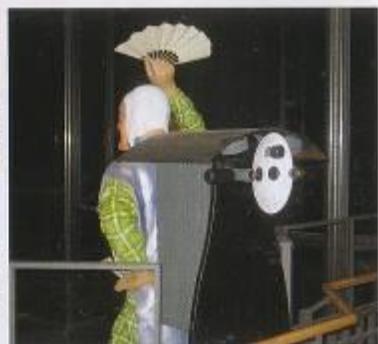
祭りの当日は、早朝から軽快なお囃子が響きわたります。各町の会所前には、道幅いっぱいには張られた曳き綱に沿って、晴れやかな祭り衣装の大人や子供が並びます。そして、山車の正面では、鳶頭の木遣りに続いて、お囃子が流れ始めます。

宰領と呼ばれる山車の運行責任者と鳶頭が間合いをはかりながら頭上たかく拍子木を二つ打ち鳴らすと、ソーレーの掛け声に合わせて、車輪をきませながら山車はゆっくりと動き出し、小江戸祭礼絵巻が始まります。

夜のクライマックスは、各交差点で繰り広げられる「曳っかわせ」です。山車が四つ角などで他町の山車に出会うと、お互いに囃子台の正面を向け、お囃子を競い合います。曳っかわせに勝ち負けはありませんが、お囃子が入り乱れ、曳き方衆の提灯が乱舞する光景は、見る者を圧倒します。特に3台、4台の山車が出会い、曳っかわせが始まると、観衆からは大きな声援が飛びかい、川越まつりのムードは最高潮に達します。



▲お囃子の実演(約20分)
展示ホールでは、日曜・祝日に各2回、お囃子の実演も行われます。



型スクリーン(6m×4m)
りの熱気と興奮が体験できます。
約7分。(毎時00分、20分、40分に上映)
⑦まつりに参加する▶
のぞき込むと、踊り手(舞)の視点から
越まつりの情景が広がります。



示コーナー
りやお囃子の歴史を説明し、関係資料を展示しています。

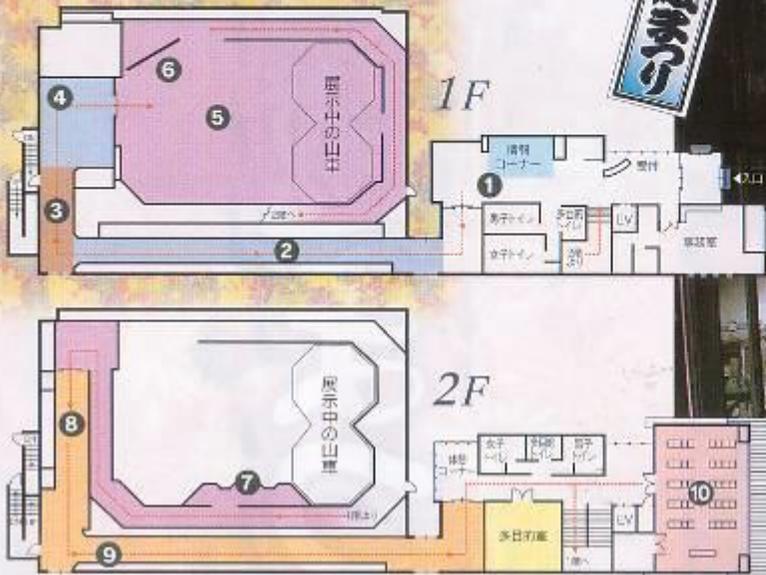


賞コンクール
川越まつり写真コンクールを行い、入選作
を展示しています。

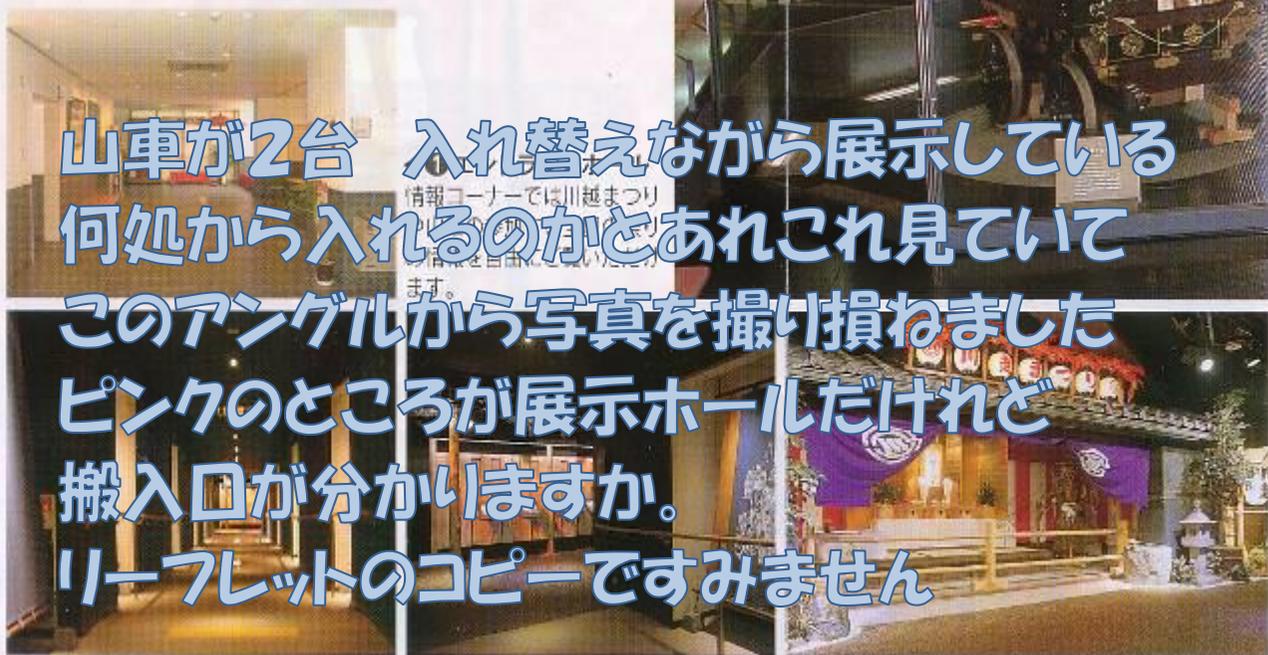


▲⑩視聴覚室
川越まつりの歴史などの映像をご覧いただけます。

いつ訪れても、まつりの
興奮と感動でいっぱい



山車が2台 入れ替えながら展示している
何処から入れるのかとあれこれ見ている
このアングルから写真を撮り損ねました
ピンクのところは展示ホールだけれど
搬入口が分かれますか。
リーフレットのコピーですみません



▲②まつりに向かう路地

▲③まつりへの思い

▲④会所に集う



⑤山車展示ホール

実際に川越まつりで使われる本物の山車2台を、定期的に入れ替えながら展示しています。華やかな幕や精巧な彫刻により飾られた絢爛豪華な山車の迫力を間近でご覧いただけます。



山車勢揃い

町名の
あいっえお順



一 松平信綱の山車…旭町三丁目



二 細女の山車…今成



三 細女の山車…大手町



四 水花咲耶姫の山車…岸町二丁目



五 秀郷の山車…喜多町



六 頼光の山車…三久保町



七 小狐丸の山車…幸町 金山会



八 鏡獅子の山車…新富町二丁目



九 家光の山車…新富町一丁目



川走りの最大の特色は、華麗な江戸型山車が数多く登場することです。二重鉢で迫り上げ式、城の門をくぐる仕掛けを持つ江戸型の山車はどれもこだわりの個性が輝きます。

※は県指定文化財(市指定文化財)

十 家光の山車…連雀町



十一 藤原道真の山車…菅原町



十二 高砂の山車…末広町



十三 龍神の山車…松江町一丁目



十四 仙波(二郎安家)の山車…仙波町



十五 鍾馗の山車…通町



十六 藤原義隆の山車…西小仙波町



十七 八幡太郎の山車…野田五町



十八 泰盛(晴尊)の山車…南通町



十九 三槍姫の山車…六軒町



二十 牛若丸の山車…元町二丁目



二十一 捕鯨の山車…松江町二丁目



二十二 鮎貝利(の山車)…新富町一丁目



二十三 瀧道の山車…連雀町



二十四 家康の山車…脇田町



二十五 山王の山車…元町二丁目



二十六 瀧道の山車…連雀町



二十七 家康の山車…脇田町



二十八 山王の山車…元町二丁目



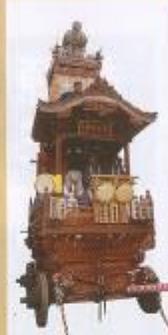
二十九 櫻狸の山車…川越市



三十 藤原義隆の山車…西小仙波町



三十一 鮎貝利(の山車)…新富町一丁目



三十二 藤原義隆の山車…南通町



三十三 瀧道の山車…連雀町





**丁度12時、まつい紹介の時間
貸し切り状態のお蔭で、丁寧な説明を受けることができた
山車は29台あり、例年はそのうち15台が登場
今年は、10月14、15日
10年ごとに総出があり、去年がその年だった**

今回展示していたのは、幸運にも
慶安元年（1648）この祭りを始めた
川越城主の松平信綱の一番山車

川越の山車は、城の門をくぐるよう
上半分がせり上がる「二重鉾でせり上げ
式」（ロープと滑車で巻き上げるエレベ
ーター）

：からくりを感心して見ていて、これも
撮り損ねました

とにかく、川越の心意気がつまった見ご
たえのある代物です

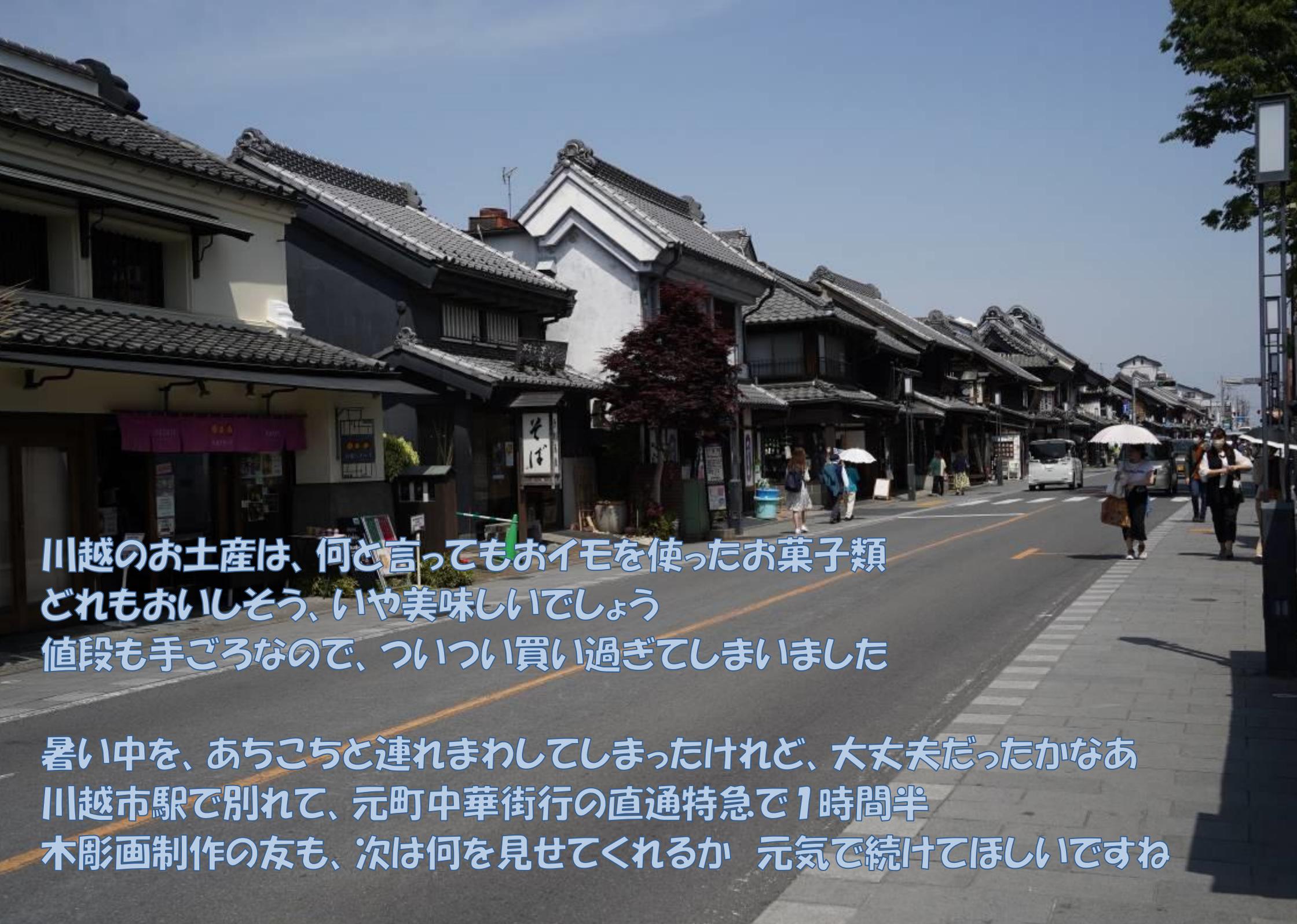
川越に来たら、何はさて置きここに来る
ことをお勧めします

と、今回は、観光案内みたい





祭りの様子を上映しています
ものすごい熱気が伝わってきます



川越のお土産は、何と云ってもおイモを使ったお菓子類
どれもおいしそう、いや美味しいでしょう
値段も手ごろなので、ついつい買い過ぎてしまいました

暑い中を、あちこちと連れまわしてしまったけれど、大丈夫だったかなあ
川越市駅で別れて、元町中華街行の直通特急で1時間半
木彫画制作の友も、次は何を見せてくれるか 元気で続けてほしいですね